

111 学年度第一学期ユーラシア財団 (from Asia) 国際講座
「アジア共同体：東アジア学の構築と変容」シリーズ講座 (2)
題目：企業の革新と持続可能な経営

中国文化大学 111 学年度ユーラシア財団 (from Asia) 国際講座の第二回目は、真理大学学長の陳奇銘先生による「企業の革新と持続可能な経営」と題する講演であった。陳先生の専門領域は人工知能のニューラルネットの革新的モデルであり、これは科学技術における最先端領域の一つである。陳先生は「革新（イノベーション）的心理学、知財（知的財産）管理、革新的（イノベーションの）5大モデル」という三つの角度から企業の革新（イノベーション）及び持続可能（サステナブル）な経営を紹介し、最後に経営の神様と呼ばれたピーター・ドラッカーの名言「イノベーションが無ければ死ぬことになる」を強調し、これが企業のイノベーションとサステナブルな経営に不可欠な要素であり、学生達に常に新しい知識を充実させ、自らの能力をアップグレードし、才能あるサステナブルな経営者になることを督励した。

革新（イノベーション）的心理学

学生諸君が大学を卒業したのちに希望することは仕事を早く見付けることである。そのためには大学在学中に早く企業と関係することが重要で、両者を関係付けるもの、すなわちイノベーションであり、それが一番重要な要素である。

オバマ大統領が在任中にイノベーションを強調し、陳水扁大統領も 2001 年にイノベーションアクション元年を打ち出し、中国も 2014 年にダボス会議で「大衆のイノベーションは、すべての人々の起業を意味する」と提案し、全世界がイノベーションの理念に注目した。

イノベーションの理念は起業を導く。ただし、それについて語ることは簡単であっても、実行に移すことは簡単ではない。イノベーションと企業を関係付ける時には「メーカー」という言葉が出現する。メーカーの源はアイデアから始まり、それは起業家精神のすべてを結び付けることである。難しいことだと思える人もいるだろうが、特定のブランドに参加することでビジネスが始められるので、実は非常に簡単なことなのである。しかし、再考するとすれば、起業の過程には資本と才能が含まれる。資金と人材が無ければ何もできないが、人材育成に関しては国家が科学技術と開発政策を立案している。その中では大学生は不要だと言われることもあるが、それは正しくない。例えば、何かを解決する方法を発見しなければならない場合は、その解決法を発見しなければならない。何かに遭遇した時、高校生なら 3 つ、大学生なら 5 つ発想するかもしれない。その中の 2 つ以上は、より優れた効率的なものになる可能性があり、したがって教育は我々の自己啓発を向上させ、

問題解決力を高める基礎教育なのである。

知財（知的財産）管理

知識の獲得と共有には知財管理（ナレッジマネジメント）が欠かせない。それに関しては、オーストリアのピーター・ドラッカーと日本の野中郁次郎に言及しなければならない。

前者は1965年にイノベーションのアイデアを提案した。その中では知識というものが土地・労働力・資本・機械・設備に取って代わることが提唱されている。以前の理念では土地に資産価値があるというものだったが、それが変わってきている。例えば、世界で最も裕福な人物であるビル・ゲイツはソフトウェアを販売し、その結果、知識とノウハウを備えた最も裕福な人物になった、というのが典型例である。

ピーター・ドラッカーのイノベーション観で最もよく知られている金言は「イノベーションが無ければ死ぬことになる」というものである。この名言は、人間は常に充電し、能力を向上させる必要があり、能力は常に変化する可能性があることを示している。常に問題に向き合い、その方法を考え、その問題を解決することで、その経験が我々の知識になるのである。

日本の学者である野中郁次郎は知識を暗黙知（すなわち言語や文章で表現することが難しい主観的、身体的な経験値）と形式知（すなわち言語や文章で表現できる客観的、理性的な言語値）との2種に分けている。野中郁次郎は4つの異なる知識変換モードによる「知識創造スパイラル」の理念を提唱している。そのモードは次の通りである。

- ① 「暗示から暗示へ」 経験の交換・共有による知識の共同化を実現し、その社会化を実現する。
- ② 「暗示から明示へ」 表現しにくい暗黙知をメタファーや類推を利用して外在化する過程である。つまり、整理することで内在化した知識を共有することである。
- ③ 「形式から形式へ」 新たに生み出された知識を結合させ、新しい製品やサービス、または管理システムを具体化することで、このモデルは異なる知識の結合化に焦点を当てている。
- ④ 「明示から暗示へ」 ほとんどの人が熟知している内面化の過程で、言語や物語などの方法で知識を個人の認識の一部にすることで、最善策は「実行して学ぶ」ことである。

イノベーションの5大モデル

ハーバード・ビジネス・スクールにおけるイノベーションの第一人者、クリステンセン（Christensen）はイノベーターの5つのDNAを提示した。つまり、イノベーションには5つの要素が必要であり、①連想的思考：イノベ-

ションを起こすには、クレイジーに考え、アイデアを交換し、衝突させる。②疑問：疑問を持つこと。いつでも疑問を持ち続け、問題を発見し、問題に直面することでイノベーションを起こすことが可能になる。③観察、④社交：お互いにコミュニケーションを取り合い、経験を共有する。⑤実験。

最後に陳先生は3M、「珍通科技公司」、コーヒーとケーキのチェーン店「85°C」などを挙げて、イノベーションモデルとナレッジマネジメントの重要性を簡明に説いた。

以上

(ウェブリンク：)

(原文：涂玉盞 日本語文学科・副教授、日本語翻訳：齋藤正志 日本語文学科・教授)